

～私たちのところへ来てくれてありがとう～

Aくんという高校生が我が家に来てくれました。心の中にAくんがなんとなくおり、仕事をしながらでもふとAくんのことを考えたりします。生活の中では、一日の時間が大きく変わりました。夫婦二人で暮らしていた頃より朝は早く、夜は遅くなりました。一日が長くなり、たまに『あー、疲れた』と感じることもあります。でも、Aくんが自分から学校や友達のことなど、その日の出来事を話してくれたり、ごはんをいっしょに食べている時に、主人が言った冗談でみんなが笑い転げた時は、日頃の疲れも忘れやすし、家族になってきたのかなあと感じます。

子育てに携わってみると、私一人では大変なことばかりだと実感します。主人をはじめ周りの人の力を借りたり、時には話を聞いてもらうだけで

ホッとすることもあります。特に里親の子育ては、子どもの成長の途中から関わることになるので、「こんな時どうしたらいいの」と思う事ばかりです。そんな時は児童相談所の担当職員の方や、里親支援機関事務局に相談したり、助けてもらったりしています。みなさんととても優しく的確にアドバイスをさせていただきます。

様々な事情がありますが、できる限り子どもたちには安心できる家庭、家族のなかで大きくなってもらいたいです。その経験が将来の力になっていくと思います。これはAくんと暮らしの中からも実感しています。

里親の子育ては時に大変と思う時もありますが、楽しいこと嬉しいことのほうが、いっぱいあります。里親に関心のある方、一步踏み出してみませんか。

